

米谷紙管製造株式会社

社会の課題を「紙管」を用いて解決する

2015年に創業100年を迎えた日本有数の紙管メーカーです。糸巻きの芯を皮切りに、建築土木用紙管、化成品フィルムやシートを巻き取るコアなど、時代のニーズに応じてきました。関西・中部・関東の3拠点体制で全国の需要をカバーし、建築土木用紙管においては全国シェア3割を誇るほか、展示会やエンターテインメントの業界などさまざまな分野で当社の紙管が活用されています。次の100年は紙管の特性を活かし、脱プラスチックやサーキュラーエコノミーなど持続可能な社会のための課題解決に向かっていきます。

商号	米谷紙管製造株式会社
本社	〒679-4311 たつの市新宮町宮内176番地
姫路営業所	〒670-0028 姫路市岩端町122-1 フィールトレイン101
創業年	1915年(大正4年)7月
設立年	1943年(昭和18年)3月
資本金	1,500万円
従業員数	39名
事業内容	各種紙管製造販売



昭和30年代後半の工場全景



博覧会ブース出展 左は二代目米谷之克



紡績から建築土木の分野へと展開

紡績産業が隆盛をみせていた1915年(大正4年)、神戸市兵庫区出身の米谷吉蔵が、姫路市岩端町で「米谷紙管製造所」を創業しました。ドイツから機械を輸入し日本初となる紙管の自動式製造を始めたほか、戦後にはわが国初の化繊用紙管を製造するなど、繊維業界の発展に大きく貢献しました。

1968年(昭和43年)に揖保郡(現たつの市)新宮町に工場を建設、紡績用紙管製造専用工場として操業を開始。旧西ドイツ・マイヤー社製の自動製造機を導入し、製造工程の大幅合理化を実現しました。時代の移り変わりこともない1971年(昭和46年)から建築土木用紙管の製造に着手。当社が開発した「エーワンボイド」「エーワンチューブ」は現場になくてはならない製品となっています。

次の100年に応える新しい紙管づくり

創業100周年を迎えた2016年(平成28年)、米谷紙管発祥の地である姫路市岩端町に姫路営業所を開設しました。新たな紙管の活用方法を発見・創造する拠点として、地域や創造の現場と連携した取り組みを行っています。

紙管は古紙100%の再生紙から作られており、端材はリサイクルされ再び紙の原料となります。資源循環の流れのなかにもありますが、工業製品として大量消費されていることも否めません。自然素材のメリットを生かしつつ、省資源でより多くの価値を生み出せる商品の開発をめざし、2020年に「軽い」「強度がある」という利点をふまえた紙管スツール「TUTU」を商品化しました。そのほか大口径紙管を得意とする当社だからこそ生み出せる製品など、次の100年の社会を紙管で創造していきます。

まちの腐葉土となる企業でありたい

紙管そのもので社会に貢献する一方で、人と地域の持続可能性にも貢献する企業でもありたいと願い、姫路城の西側の〈城の西〉エリアに暮らす古老や職人に地域の記憶を聞く「聞き書き」の取り組みや、地元に自生する樹木を知って緑を見る目を養う「みどりのウォーキング」、持続可能な地域づくりのための「パーマカルチャーデザイン」では紙管を使った菜園づくりなど、スローな活動を支援しています。

先代らが時代の移り変わりに対応し、また時代を先取りしてきたように、小粒でも新しい取り組みの種を蒔き、地域の人々とともに育てていきたい。いまま未来も暮らしやすいまちとなるために、社会の多様な課題を解決する仕組みづくりの一翼を担うことができれば、まちの発展とともに当社も栄え、これからも持続していけると考えています。



収納付き紙管スツール「TUTU」



紙管を使った照明フード



紙管の菜園(レイズドベッド)

since
1915